RV042、RV042G、およびRV082 VPNルータでのバックアップ仮想プライベートネットワーク(VPN)トンネルの設定

目的

VPNは、トンネリングプロトコルを介してネットワークをリモートで安全に接続するために使用されるプライベートネットワークです。バックアップVPNトンネルでは、プライマリVPNトンネルが接続できない場合でも接続が維持されます。

このドキュメントの目的は、RV042、RV042G、およびRV082 VPNルータ上の2台のルータ間にバックアップ仮想プライベートネットワーク(VPN)トンネルを設定する方法について説明することです。

注：ゲートウェイ間VPNの設定方法の詳細については、『RV016、RV042、RV042GおよびRV082 VPNルータでのゲートウェイ間VPNの設定』を参照してください。

適用可能なデバイス

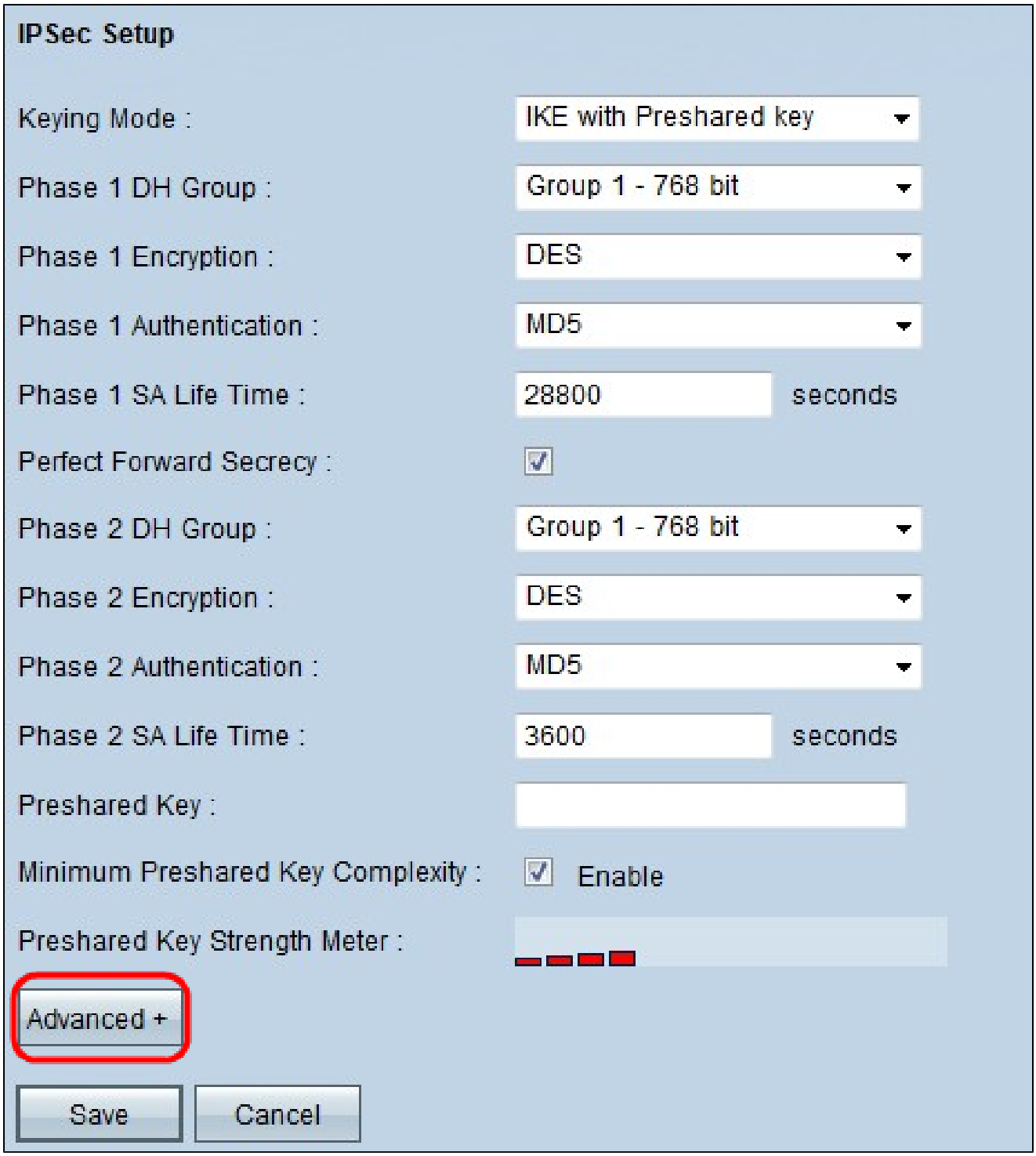
- RV042
- RV042G
- RV082

バックアップトンネルの設定

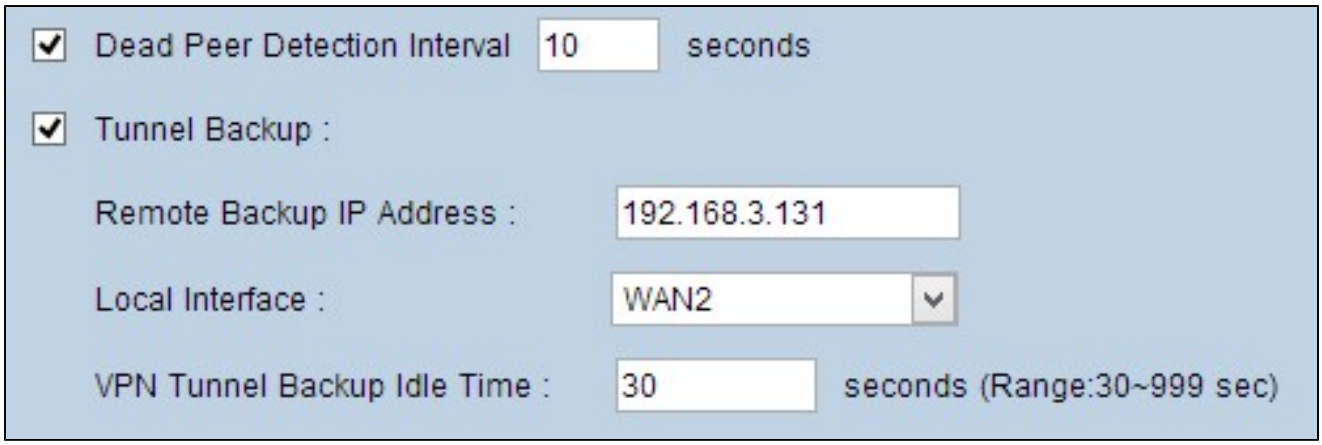
VPNの詳細設定

ステップ 1：Web設定ユーティリティにログインし、VPN > Gateway To Gatewayの順に選択します。Gateway To Gatewayページが開きます。

ステップ 2：Advancedセクションまでスクロールして、Advancedをクリックします。Advanced領域が表示されます。



ステップ 3：Dead Peer Detection Intervalまでスクロールダウンして、Dead Peer Detection Intervalチェックボックスにチェックマークを入れ、HelloまたはACKを定期的に通過するVPNトンネルの状態をチェックします。



ステップ 4：Dead Peer Detection Intervalフィールドに、helloメッセージの間隔を秒単位で入力します。これは、トンネル接続のステータスを確認するためにメッセージを送信する頻度の時間です。

ステップ 5：VPNトンネルをバックアップするには、Tunnel Backupチェックボックスにチェックマークを付けます。

手順 6：Remote Backup IP Addressフィールドに、リモートルータのバックアップIPアドレスを入力します。

手順 7：Local Interfaceドロップダウンリストから、バックアップ接続用の適切なWANインターフェイスを選択します。メインVPN接続以外のバックアップ接続用の代替WANインターフェイスを選択します。メインVPN接続が失敗すると、このバックアップ接続だけが表示されます。

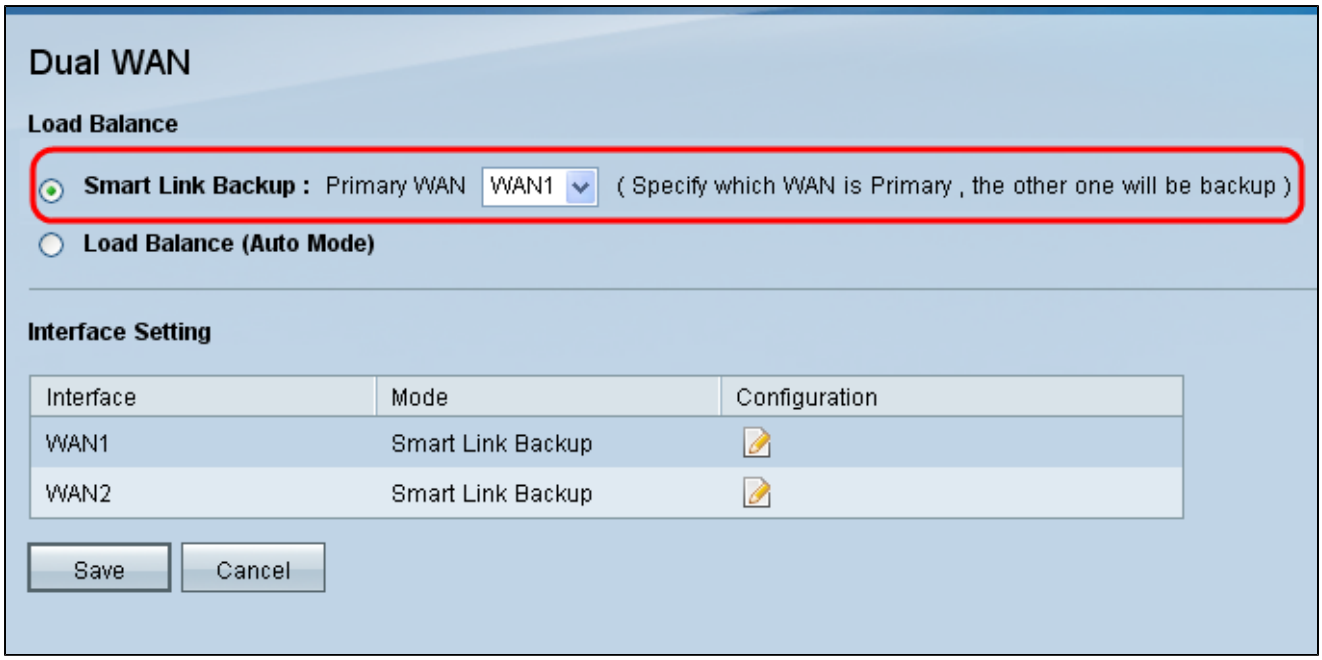
ステップ 8：VPN Tunnel Backup Idle Timeフィールドに、最初のVPNトンネルに障害が発生した後にバックアップトンネルへの接続を試みる前にルータが待機する時間（秒）を入力します。

ステップ 9：[Save] をクリックします。

スマートリンクバックアップの設定

スマートリンクバックアップ設定では、プライマリリンクに障害が発生した場合にバックアップリンクが引き継ぐことができます。したがって、スマートリンクバックアップは、プライマリリンクに障害が発生した場合にのみ使用されます。

ステップ 10：Web設定ユーティリティにログインし、System Management > Dual WANの順に選択します。Dual WANページが開きます。



注：デュアルWANの設定方法の詳細については、『RV042、RV042G、およびRV082 VPNルータでのSmart Link Backup (フェールオーバー) の設定』を参照してください。

ステップ 11Smart Link Backupオプションボタンをクリックして、メインVPN接続が失敗した場合にバックアップVPN接続とのVPN接続を継続します。

ステップ 12Primary WANドロップダウンリストから、プライマリVPN接続に使用したWANインターフェイスを選択します。

ステップ 13[Save] をクリックします。

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。